

## 大隈重信・略歴（大隈重信略年譜より）

1838	（天保9年）	2月16日	佐賀、会所小路にて誕生、父 大隈信保 母 三井子
1844	（弘化元年）	6歳	<u>藩校弘道館</u> 外生寮入寮
1848	（嘉永元年）	10歳	外生寮「会読」に進級
1850	（嘉永3年）	12歳	6月 父信保死去
1853	（嘉永6年）	15歳	1月 弘道館 内生寮入寮
1854	（安政元年）	16歳	5月 義祭同盟に加入
1855	（安政2年）	17歳	6月 弘道館、南北騒動首謀者として退学処分
1856	（安政3年）	18歳	蘭学寮入寮 国学を枝吉神陽に学ぶ
1861	（文久元年）	23歳	蘭学塾と弘道館合併、 <u>重信教授になる</u> 藩主鍋島直正にオランダ憲法進講
1864	（元治元年）	26歳	<u>代品方として長崎に赴任。</u>
1865	（慶應元年）	27歳	<u>英学塾「致遠館」長崎に開学</u>
1867	（慶應3年）	29歳	3月 副島種臣と共に脱藩し徳川慶喜に大政奉還を薦める ため京都へ赴くも 5月藩史に捕縛され佐賀へ送り 返され1ヶ月謹慎処分 10月 英国船で横浜に視察旅行 鍋島閑叟に時局解説
1868	（明治元年）	30歳	3月 <u>徴士として明治政府に登用され「外国事務局判事」</u> <u>として長崎に赴任</u> 4月 キリスト教信者処分問題で英国公使パークスと論争 し名を上げる 12月 「外国官副知事」に任官
1869	（明治2年）	31歳	2月 三枝七四郎娘、綾子と結婚（再婚） 3月 「会計官副知事」を兼務 4月 <u>築地に家を新築</u> 7月 「大蔵大輔」に任官
1870	（明治3年）	32歳	9月 <u>「参議」</u>
1872	（明治5年）	35歳	6月 「参議」を辞任、7月 「参議」再任
1873	（明治6年）	35歳	10月 <u>「大蔵卿」を兼務</u>
1880	（明治13年）	42歳	2月 大蔵卿兼務免任 「参議」専任
1881	（明治14年）	43歳	3月 <u>国会開設問題について伊藤博文と意見対立</u> 7月 明治天皇東北巡行に供参 10月 <u>政変のより「参議」を辞任</u>

1882	(明治 15 年) 44 歳	3 月	<u>「立憲改進黨」</u> 結成し総理に就任
		10 月	<u>東京専門学校を開校</u> (のちの <u>早稲田大学</u> )
1888	(明治 21 年) 50 歳		「外務大臣」就任し通商条約改定に取り組む
1889	(明治 22 年) 51 歳	10 月	玄洋社社員 来島恒喜に爆弾を投げられて 右足を切断
		12 月	外務大臣辞任
1895	(明治 28 年) 57 歳	1 月	母三井子死去
1896	(明治 29 年) 58 歳	9 月	外務大臣就任 (1897 年 12 月辞任)
1898	(明治 31 年) 60 歳	6 月	「憲政党」結成 第一次大隈内閣組閣
		11 月	内閣解散
1901	(明治 34 年) 63 歳	4 月	東京専門学校改め <u>早稲田大学</u> となる
1902	(明治 35 年) 64 歳	10 月	早稲田大学 20 周年記念式典に臨む
1907	(明治 40 年) 69 歳	1 月	憲政本党総理辞任
		4 月	<u>早稲田大学総長</u> に就任
1913	(大正 2 年) 75 歳	10 月	早稲田大学 30 周年記念式典に臨む
1914	(大正 3 年) 76 歳	4 月	第二次大隈内閣組閣
1916	(大正 5 年) 78 歳	10 月	第二次大隈内閣解散
1922	(大正 11 年) 84 歳	1 月 10 日	死去
		1 月 17 日	<u>日比谷にて「国民葬」</u>

(以上)